

月刊

2011.8月号

# MITSUWA TIME

## 特集

- ・ともちちゃんの「突撃インタビュー」：宮崎社長
- ・工程インタビュー：コイリング編

# ともちゃんの『突撃インタビュー！！ 宮崎社長 編』

チーム:今回、私達のものづくりチームは、活動した事を月刊誌にして皆さんに見てもらおうことにしました。そこで初回と言うことで、社長にインタビューをすることになりましたが宜しいでしょうか。  
社 長:はい、いいよ、何でも聞いて。



チーム:ものづくりセミナーも3クール目に入って、皆もだいぶ慣れてきたように思いますが？  
社 長:そうだね、やっと浸透してきたというか、最初の頃は生産を2時間止めて無駄ではないかと言う声もあった様だが、好調な時ほど、未来を見据えた事をやるべきなんだよ。

チーム:確かに当初は生産に追われていた現場側から批判的な声もあったようですが？

社 長:「忙しいから出来ない」というのは言い訳で、最初から無理だと考える事や行動する事を諦めてしまっているんだよ。それでは、その時はいいかもしれないけど、会社は、社員は立ち止ったままで成長しないだろう？

チーム:はい、おっしゃる通りだと思います。それで、今回のテーマは品質になっていますが、社長の考える品質とはどういうものでしょうか？

社 長:品質問題と言うと大体、不良削減などに注目しがちだけど、少し見方を変えてもいいんじゃないかな。

チーム:どういう意味でしょうか？

社 長:例えば、全く不良を出さない社員がいたとして、それだけでその社員を『優秀社員』だと判断するのかね？

チーム:・・・ はあ。具体的には？

社 長:重要なのは、どういう姿勢で仕事に取り組んでいるかなんだよ、その社員が不良や失敗を怖がって、仕事に対して消極的だったらどう思う？一方で、積極的に仕事をした結果、不良を出してしまった社員がいるとする。・・・で、どちらの社員を評価したらいいと思う？

チーム:それはやはり、後者だと思います。

社 長:そうだよな。何もこれは不良を出さず事をいいと言ってるんじゃないよ。

要は、仕事に対する考え方や姿勢なんだよ。

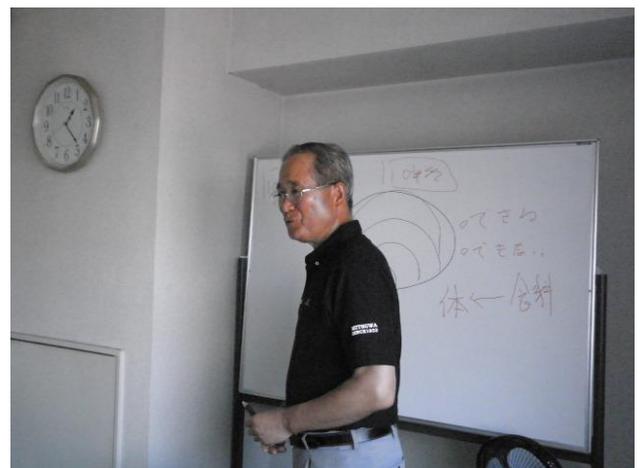
いかに失敗しないようにと仕事をするのではなく、『どうしたら成功するか』『上手くいくか』という考え方で仕事に取り組んでほしいんだよ。

チーム:よく分かりました。

社 長:『忙しいから出来ない』と思わないで、『どうしたら出来るのか』と考えて欲しいんだよ。もちろん、それで失敗することもあるよ。でも、その失敗ばかりを取り上げないで、行動したことを重要だと思わないといけないんだよ。

エジソンも、最初に成功するまでは周りから変人扱いされていただろう？

チーム:・・・ はい。



社 長:エジソンは電球を完成させるまでに1800回も失敗したんだよ。

だから『失敗を恐れない。チャレンジする。意欲をもって行動する。』そういった考え方、方向に社員を導き、育てていくのが会社の品質向上に繋がると、

私は思うのだよ。以前からも言っている様に、  
『ものづくり=人づくり』  
とはこういうことなんだよね。  
チーム: ああ、良く分かりました。  
この『ものづくり活動』には、そういう意図も含まれていたのですね!



社 長: あと、君達は、『五年先、十年先の目標』や自分の将来の姿のビジョン』みたいなものを持ってもっているかね?  
チーム: いやあ～、五年先、十年先の不安だったら一杯あるんですけども(笑)  
目標とか言われても考えられないんですけど。。



社 長: だからそうじゃないと、さっきから言っているだろう～。考えられないのではなく、考えようとしてないだけなんだよ。

チーム: はあ。

社 長: 何でもそう。

『最初から考えても無駄だと諦めている。』

『無理だと決めつけている。』

それでは人は成長しないだろう?

チーム: はい。

社 長: 十年先とまで言わなくても、せめて、五年先の目標や夢を持たなければダメだよ。

何も仕事だけでなくもいいんだよ。私生活の事でも、趣味の事でも何でも。

そういう目標みたいなものがあれば、今苦しくても頑張れるだろう?

毎日を充実して過ごせるようになると思うよ。

チーム: そうですね。確かにその通りだと思います。

今日はいろいろとお話を聞かせて頂いて、どうもありがとうございました。

## ともちゃんの独り言



ともちゃんの突撃インタビューなんて、いきなり無茶振りして、なんなのよアイツ(宮下)。大体、『ともちゃん』、『ともちゃん』って気安く勝手に使わないでほしいわよ～。おまけに、この「突撃インタビュー」企画は毎月やるとか言ってるし～(泣)。こうなったら突撃でも玉砕でもどうにでもなれ!よ。 というわけで、次回は宮崎常務に突撃予定です。常務、覚悟しておいて下さい。

2011/6/9: 三沢(宮下)

# Miki 記事

私達、コージ・コーナーチームは『月刊誌の発行』という異色なテーマで何かと話題的(笑)となっていますが、我がCAPの超・超・強烈な熱意とメンバーの真剣な思いが相まって、この様なテーマでの活動を選択することとなりました。

初めは、今回テーマの選択を全員がそれぞれで考え、その中から選択することからスタートしましたが、5人5様の工程・部署が異なり、また製造段階の工程に関わっている人材が少なかったこともあってテーマを1つに絞る事も共通項を見出す事も困難でした。何とか「最も重要なテーマ」か「最も品質に関わるテーマにしようか」・・・などと随分考えたのですが、何か1つに選択した場合、『該当メンバー1名がメインに活動せざる得なくなってしまう』という問題が残ってしまいました。

「なぜ、同じ会社のメンバーで同じ目的のテーマで、全員と一緒に活動することが難しいのだろうか？」

結局、他工程・部署を知る機会は、工程や部署により異なってしまう、多能工にくい部門もあり、他工程と接触のない環境の部門もある。

それなら・・・深く・専門的には無理でも、まずは浅く広くみんなの仕事を知る事から始め、社内の品質問題を全員が意識して、他工程の事であっても、頭の片隅に考えながら全員で解決していく気持ちで、日々行動することにより改善の輪が広がるのではないのでしょうか？ 直接的な改善には至らないかもしれませんが、まずは知ることから品質の向上が始まるのではないのでしょうか？・・・と考えたのでした。

この月刊誌の発行では、皆さんの仕事や活動のほんの一部に過ぎませんが、その一端でも垣間知り、三和電気で一緒に働く仲間やその人達の携わる工程に対して徐々に理解が深まって、その意識向上が品質向上に繋がることを切に願っているものです。

また仕事のみならず、会社の楽しいイベントやコミュニケーションなども大切にこの誌面を飾って「会社・品質・人間関係の発展の一役になれば・・・」と、メンバー全員がそんな思いで活動していきます。

2011/8/4： 石田美紀

## 編集後記 .....

宮 下：『面白くて、解りやすく、為になるもの。  
そんな風になったらな～と思っています。』

石田(宏)：『何でもゼロから作り出すことは大変です。』

三 澤：『次回のインタビューはもっと突っ込んでいきま～す♪』

前 田：『私の書いたイラスト・・・次回は採用してね！CAPが握り潰してない？』

石田(美)：『初版は試行錯誤の連続、、徐々にレベルUPを目指します。』